|  |
| --- |
| 中小企業の動き（2019年10～12月期／業種別景気動向調査） |

「中小企業景況調査」（中小企業庁･独立行政法人中小企業基盤整備機構）によると、全国における2019年10～12月期の中小企業（全産業）の業況判断ＤＩ（前期比季節調整値）は－21.1で、前期より4.5ポイント低下し、４期連続の低下となった（図１）。

業種別にみると、製造業は－22.4（前期より5.2ポイント減）となり、６期連続で低下した。非製造業は－20.6（前期より4.2ポイント減）と３期連続で低下した。製造業のＤＩの低下幅が非製造業より大きく、非製造業を２期連続で下回った。

非製造業を業種別にみると、これまでの回復基調が続いた「建設業」を含め、全産業でＤＩが低下した（図２）。低下幅は、「小売業」が6.5ポイント減と最も大きく、ＤＩの水準も－33.1と最も低い。

経営上の問題点は、建設業を除く業種で「需要の停滞」が上位３位内に入る課題であり、その割合も高まった（図３）。「製造業」「卸売業」では、前期までも突出して高い１位の課題であったが、「小売業」「サービス業」でも順位を上げ、それぞれ１位、２位の課題になった。一方、建設業では、「従業員の確保難」が突出した１位であり、引き続き割合を高めた。

これに対して、「原材料（材料価格・仕入価格）の上昇」は依然として、「製造業」「建設業」「卸売業」で課題の上位を占めるものの、その割合はさらに低下した。

2020年１～３月期の業況判断ＤＩ（全産業）は、－14.7で、今期より6.4ポイント上昇の見通しとなった。

図１　中小企業の業況判断ＤＩの推移



出所：独立行政法人中小企業基盤整備機構「第158回中小企業景況調査（2019年10—12月期）」

（注）業況判断ＤＩは、「好転」企業割合－「悪化」企業割合。前期比季節調整値。

図２　非製造業の業種別の業況判断ＤＩの動き



出所：独立行政法人中小企業基盤整備機構「第158回中小企業景況調査（2019年10—12月期）」

図３　経営上の問題点（各業種３位まで）の動き



出所：独立行政法人中小企業基盤整備機構「第158回中小企業景況調査（2019年10-12月期）」